HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	「ユニバーサル・ミュージアムーさわる！“触”の大博覧会」岡山巡回展プレ展示および 岡山県立美術館「暗闇WS - さわって、はなして、みる」体験報告
Author(s)	島, 絵里子
Citation	全日本博物館学会ニュース, 142, 4-6
Issue Date	2022-10-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/87652
Type	journal article
File Information	museology_142.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

「ユニバーサル・ミュージアム―さわる！“触”の大博覧会」岡山巡回展プレ展示および岡山県立美術館「暗闇 WS - さわって、はなして、みる」体験報告

１．はじめに

2021年9月2日から同年11月30日にかけて、国立民族学博物館にて特別展「ユニバーサル・ミュージアム ― さわる！“触”の大博覧会」が開催された。英題は、“UNIVERSAL MUSEUM”: Exploring the New Field of Tactile Sensation [1]。スローガンは、「さわるとわかる、わかるとかわる！」であり、特別展の目的は、「「ユニバーサル・ミュージアム＝誰もが楽しめる博物館」の具体像を示すことだった」[2] という。その最初の巡回展が、来年（2023年）4月1日から5月7日にかけて、岡山市KURUN HALL（クルンホール）にて開催される予定である。そのプレ展示が、今年（2022年）9月23日から10月23日にかけて、岡山市内「杜の街グレース」にて開催された。また、同じく今年10月に、岡山県立美術館で『暗闇ワークショップーさわって、はなして、みる』が開催された。本稿では、その体験を報告する。

２．ユニバーサル・ミュージアムとは

体験報告の前に、「「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か」について、特別展の実行委員長であった広瀬浩二郎氏の言葉を、著書『世界はさわらないとわからない　「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か』（平凡社、2022年7月発行）の中から紹介したい。

****

（中略）「ユニバーサル・ミュージアム」は和製英語である。通常、英語で「Universal Museum」といえば、総合的な調査研究・展示を展開する大規模な博物館を指すことが多い。特別展の実行委員長である僕は、日本で生まれた独自の概念として「ユニバーサル・ミュージアム」を世界に発信したいと考えている。

まず、ユニバーサル・ミュージアムとは、ユニバーサルデザインの理念を博物館美術館に応用した取り組みだが、単なる障害者対応、弱者支援というレベルにとどまるものではない。「誰もが楽しめる」を実現するために、健常者（マジョリティ）の価値観・世界観にインパクトを与え、博物館の常識・固定観念を問い直す。こうして、新たな普遍性を築くのがユニバーサル・ミュージアムの要諦である。（p.48）

****

「ユニバーサル」のほかにも、「インクルーシブ」「アクセシブル」「SDGs」…さまざまなキーワードがある。今年2022年8月に決定したICOMによる博物館の新定義には、以下の2文が含まれる。“Open to the public, accessible and inclusive, museums foster diversity and sustainability. They operate and communicate ethically, professionally and with the participation of communities, offering varied experiences for education, enjoyment, reflection and knowledge sharing [3].” アクセシブル、インクルーシブとユニバーサルの違いについて、広瀬氏は考察を重ねている [4]。誰が誰を「インクルード」するのか。誰が誰を「誰一人取り残さない」のか。その主語が暗に示すものは何なのだろうか。

３．岡山県立美術館『暗闇ワークショップーさわって、はなして、みる』体験報告

岡山県立美術館では、2011 年度から岡山県立盲学校との連携が続いており、この連携をきっかけに、さわることに注目したワークショップも生まれた [5]。ユニバーサル・ミュージアム事業『暗闇ワークショップ』（以下、『暗闇 WS』）は、年 1～2 回、継続して開催されてきたが、コロナ禍で 2 年半、開催見合わせとなり、今年（2022 年）3 月に再開された [6]。今回 10 月が、今年 2 回目の『暗闇 WS』であった。前回 3 月の『暗闇ワークショップーさわって、つくって、みる』については、岡本（2022）「実践報告「暗闇ワークショップーさわって、つくって、みる」[7] や岡山放送 Web サイト [8] に紹介されている。

今回、筆者は小学生の子どもと一緒に、親子で「じゅにあ・ミュージアム・Lab『暗闇 WS ーさわって、はなして、みる』」（2022 年 10 月 9 日午前の部）に参加した。WS のチラシには、以下のように書かれていた。

****

「真っ暗闇の世界で、「作品を＂みる＂」体験をしたことはありますか？暗闇の中で使えるのは、視覚（みる）以外の感覚器官です。視覚以外の感覚器官（聴覚：きく／味覚：あじわう／

嗅覚：におう／触覚：さわる）を活かして、暗闇のスペシャリスト・広瀬浩二郎さん、そして彫刻家の北川太郎さんと一緒に、暗闇の中で「さわって、はなして、みる」世界を楽しみましょう。」(9)

****

当日、アイスブレイクの時間に、広瀬氏からは、3 つのメッセージ･･･1-さわらないと分からないことがある、2-さわり方：まず手のひらで大きくさわり、次に指先で細かくさわる、3-さわるときは優しく。なぜなら、それをつくった人がいるのだから。その作り手のことを考えれば、荒くさわることはできないだろう･･･が語られた。そして、いよいよ暗闇の展示室へ。大人の腰の高さのあたりに一本のロープが道筋のように張られており、それをさわってたどりながら歩いた。作品は、一定間隔をあけて、3 つ置かれていた。参加者 1 組ずつ、一つの作品の前で立ち止まる。広瀬氏の声がけとともにさっそく鑑賞が始まった。しばらくして、北川氏から、各作品の題名が紹介された。私たちが最初にさわった作品は『時空ピラミッド』、二つ目は『静けさ』、三つ目は『島』だった。作品名を聞かないまま、さわって鑑賞することで作品を思い描いていたので、自分の頭の中で描かれたもの（イメージ）と作品名を聞いた印象が重なるものもあれば、ギャップを感じるものもあった。鑑賞の最後には、参加者一人一人が感想を述べていった。それを受けてみんなも鑑賞だけではなくて、創作をしているように感じた、というメッセージが北川氏から寄せられた。

暗闇 WS の間も、終了後も、さわった作品を目で見る機会はなかった。頭の中に、さわりながら思い描いたものが残っている。作品は岡山県立美術館の収蔵品であり、いつか展示される機会があることや、当日、杜の街グレースで開催中であった「ユニバーサル・ミュージアム」岡山巡回展プレ展示で、北川氏の作品がいくつか展示されていることが紹介された。筆者も、WS 終了後、その会場へと向かった。

４．「ユニバーサル・ミュージアム―さわる！“触”の大博覧会」岡山巡回展プレ展示

約 20 点の作品が展示されており、すべての展示にさわることができた(10)。作品は、

・三木製作所によるさわれる立体地図：「立体世界地図」、「富士山立体地図」
・片山博詞氏によるヒトの彫刻：「ひとのかたち・「REQUIEM－昇華される記憶－」」、「ひとのかたち・「K 嬢－夏－」」
・北川太郎氏による石の彫刻：「時空ピラミッド」、「時空の種子」
・冨長敦也氏による石の作品 4 点：「イタリア産トラバーチン / 2015 年、大阪府豊中市でのプロジェクト」、「石川県産戸室石 / 2016 年、福井県、福岡県、北海道他でのプロジェクト」、「イタリア産大理石 / 2017 年、大阪府池田市でのプロジェクト」、「能勢産黒御影石 / 2018 年、大阪府池田市でのプロジェクト」及び記録映像
・大塚オーミ陶業(株)による陶板名画：「「ひまわり」 / ゴッホ、「風」 / 加山又造、「高松塚古墳壁画 ・西壁女子群像」
・渡辺泰幸氏による土の音具：「土の音」
・岡本高幸氏による体験型の古墳型の彫刻：「とろける身体－古墳をひっくり返す」

であった(11)。

「土の音」は、球の形のものが 5 つ、平たい形のものが 3 つ、台に置かれており、いずれも細長い空隙が上部にあった。そばにはたたいて鳴らすための棒が置いてあり、色々な角度から様々な強弱で音を鳴らして聴くことができた。作品に手を置いて鳴らしたときの音と、手に響いてくる振動など、さわり方で変化する音や、手に響く感覚もあわせて楽しむことができた。

「「ひまわり」/ゴッホ」（大塚オーミ陶業(株)）は、目をとじて集中して何度もさわったが、描かれた絵を思い浮かべることには到底たどり着かなかった。平面に描かれた絵をさわって、手や指先から入ってくる情報を頭の中でつないでいき全体のイメージを作ることの難しさを感じた。オランダにあるゴッホ美術館（Van Gogh Museum）においても、「Feeling Van Gogh」というプログラムで「ひまわり」にさわることができるという(12)。両者の「さわれる絵画」の作り方にも興味をもった。この日、私自身はさわって頭の中で画を描くことはできなかったが、絵に体全体を伸ばしてさわることができた感動は大きかった。

「暗闇 WS」で一つ目にさわった作品と同じ題名である『時空ピラミッド』（北川太郎）にも出合うことができた。WS でさわったものとまったく同じものではない。昨年度、国立民族学博物館特別展で展示されていた『時空ピラミ

ッド』（北川太郎）は、より大きなサイズであり、自分の記憶とはこの数日後につながった。

５．「さわる」ことの意味とは

特別展のスローガンは、「さわるとわかる、わかるとかわる！」であった。「さわる」ことの意味とは何だろうか。私自身も、今回の体験をふりかえって考えた。

今回の暗闇 WS に参加して、視覚をつかわずにさわって鑑賞して感じたことの一つは、自分自身との対話だった。さわっては思い描いていく中で、こんな形かな、どうやって作ったのかなど、自分で自分に語りかけているような時間が多くあった。臨床発達心理士である山口（2006）によれば、触覚には、他の感覚にはない独自性があり、それは、アクティブタッチ（触覚と運動が結びついて対象を知覚するはたらき）を可能にする固有感覚にある〔13〕という。そして、固有感覚は、全身の隅々に至るまで感じる感覚であるため、自己の意識とも深く関わっているのだという〔13〕。暗闇 WS の中で、自分自身との対話が印象に残ったのも、触覚、固有感覚に関係しているのかもしれない。

もう一つ強く印象に残ったのは、さわり心地と温度であった。特に温度は、さわることで、さわられている方もさわっている方も温度が変化していく。さわることで、自分と、その「もの」とにつながりが生まれたことが、熱による皮膚温の変化（熱伝導）からも感じられた。

固有感覚は触覚といっしょになって環境を探り、さらに環境を変える機能をもつが、視覚をはじめとする他のどの感覚も、この重要な機能をもたない〔14〕という。見たものを組み立てる、手加減しながら調理するといった「知覚しながら環境を変える行動」に重要な役割を演じている触覚-固有感覚〔15〕。「さわるとわかる、わかるとかわる！」の過程を触覚-固有感覚、アクティブタッチに注目し探究していきたい。

「見る」だけでなく、「さわる」「かぐ」「聴く」「動かす」など、展示、博物館を楽しむさまざまな方法や環境があると、「見る」への過度な依存がやわらいでいくだろう。多感覚をもちいてうまれる博物館体験と、そこから生まれる変化や交流に注目していきたい。

注記・引用文献

1. 国立民族学博物館（2022）過去の特別展．特別展「ユニバーサル・ミュージアム ―― さわる！“触”の大博覧会」 https://www.minpaku.ac.jp/en/ailec_event/16856 （2022年10月検索）
2. 広瀬浩二郎（2022）世界はさわらないとわからない 「ユニバーサル・ミュージアム」とは何か．平凡社
3. ICOM（2022）Museum Definition. https://icom.museum/en/resources/standards-guidelines/museum-definition/ （2022年10月検索）
4. 広瀬浩二郎（2021）博物館から社会を変える－公開シンポジウムの成果－.国立民族学博物館編集,広瀬浩二郎編「ユニバーサル・ミュージアム ― さわる！“触”の大博覧会」小さ子社,pp.214-215及び前掲広瀬(2022)ほか.
5. 岡本裕子（2016）対話を用いた教育プログラムの立案－美術館と盲学校の連携から－．広瀬浩二郎編著「ひとが優しい博物館 ユニバーサル・ミュージアムの新展開」青弓社, pp.36-49.
6. 岡本裕子（2022）実践報告「暗闇ワークショップ－さわって、つくって、みる」．岡山県立美術館「美術館NEWS」第138号, p.3.
7. 前掲 岡本裕子（2022）
8. OHK岡山放送（2022）【手話が語る福祉】触るアート！？目隠しをして暗い室内で…ユニバーサルミュージアムとは(2022年4月5日) https://www.ohk.co.jp/data/16478/pages/ （2022年10月検索）
9. 岡山県立美術館（2022）10月じゅにあ・ミュージアム・Lab「暗闇WS－さわって、はなして、みる」参加者募集（ちらし）
10. Screens（2022）岡山放送、「ユニバーサル・ミュージアムーさわる！“触”の大博覧会」岡山巡回展プレ展示イベントを開催（2022年9月28日）https://www.screens-lab.jp/article/28320 （2022年10月検索）
11. ユニバーサル・ミュージアム岡山巡回展プレ展示作品解説シート
12. Van Gogh Museum（2022）Feeling Van Gogh. https://www.vangoghmuseum.nl/en/visit/whats-on/feeling-van-gogh（2022年10月検索）
13. 14. 15. 山口創（2006）皮膚感覚の不思議－「皮膚」と「心」の身体心理学．講談社.

（島 絵里子 大阪市立自然史博物館外来研究員/北海道大学大学院）